

< 答申添付資料 >

資料4

意見集(案)

- ・ 基本構想原案に対する個別意見
- ・ 前期基本計画原案に対する意見

平成 24 年 9 月 13 日

川西市総合計画審議会

基本構想原案に対する個別意見

	該当箇所	基本構想原案に対する個別意見
1	全体	全体の記述にも関わってくるが、「子育て」や「教育」は、今後定住を促進するうえで特に重要な要素であるにも関わらず、他の施策等と横並びで表現されている。継続的な取り組みと重点的な取り組みについては濃淡をつけて表現すべき。()
2		具体的にどの施策を優先的に取り組んでいくかということについては、今後の策定過程で明らかにしていくものと思われるが、子育て関連施策の重要性については現段階で記述すべき。()
3		子どもの写真を掲載するなど、イメージが伝わるようなレイアウトにすべき。()
4	【第1部】 全体 (原案1～22ページ)	子育て世代(30～40代)の定住人口の促進については政策的に重要なポイントであるため、「第1部」の段階から記述すべき。()
5		通常は「基本構想 基本計画 実施計画」というようにブレイクダウンしていくものだが、実施計画においても子育て関連政策が重要なキーファクターになると思われる。その意味では、下(基本計画)を議論してから上(基本構想)を議論することも一つの進行方法であると考える。()
6	【第1部】-第1章- 「総合計画の策定の趣旨とこれまでの経緯」 「総合計画の役割」 (原案1～2ページ)	ワークショップ等の機会を確保し、多様な人の声を取り上げてほしい。()
7		若い世代をはじめ、様々な世代の声を拾い上げることができるような仕組みづくりを検討してほしい。()
8		川西市に働きに来ている人も含め、勤労者にもわかりやすい計画となるよう工夫する必要がある。また、参画と協働の推進にあたり、「声なき声」を拾い上げるなど、市民参加の機会を増やすことが大切である。()
9		「自治会」という単位の中であれば、一人ひとりの声を反映させることが可能であるかもしれないが、総合計画の対象が全市民であることに立ち返ると、それは無理である。しかし、可能な限り多くの人の意見を聞く機会を設ける必要がある。()
10	【第1部】-第1章- 「計画の名称及び構成と期間」 (原案3ページ)	「地域分権制度」は市民主権であり、地域で自治を行うことである。()
11	【第1部】-第1章- 「計画の名称及び構成と期間」 (原案3～4ページ)	第5次総合計画は「地域別構想」を重視しているが、市全体を表す「総合計画基本構想」と関連するのか。その関係性を記述する必要がある。()

	該当箇所	基本構想原案に対する個別意見
12	【第1部】-第1章- 「計画の名称及び構成 と期間」 【第1部】-第3章- 「時代の潮流とまちづく りの主な課題」 (原案3・12ページ)	「住民自治」の観点からは地域住民の変革が求められるが、「団体自治」の観点から、市行政も仕組みを変えていかなければならない。()
13		人口・世帯等の推移に関する統計データをもう少し入れるべき。()
14	【第1部】-第2章- 「人口・世帯等の状況」 (原案7ページ)	世帯数の中でも、特に単身者世帯数の動向について記述すべき。()
15		人口動態の中でも、特に昼夜間人口や交流人口の数値はまちの特性を表すものであり、記述すべき。()
16	【第1部】-第2章- 「地域資源」 (原案9ページ)	文化活動は広い地域で多様に展開されているため、特定の文化施設の記述に限定せず、文化をもう少し広い意味で捉えて記述すべき。()
17		レフネック(生涯学習短期大学)の授業は周囲から高い評価を得ており、誇れる地域資源として記述すべき。()
18	【第1部】-第2章- 「地域資源」 (原案9～10ページ)	市民活動が活発な住宅都市としての特徴や、約16万人の人口を擁する中堅都市としての特性を川西市のポテンシャルとして記述してもよい。()
19		市とコミュニティ、学校とコミュニティはもとより、コミュニティ同志のさらなる連携強化が必要である。()
20	【第1部】-第2章- 「地域資源」 (原案10ページ)	川西市内には小学校区が14、コミュニティが13存在するが、最初に設立されたのは多田小学校区であり、この歴史的な点は重視されるべきである。また、コミュニティ同志の連携はあり、文化・スポーツ面において連携している。()
21		基本構想は向こう10年間を規定するものであるため、変動する要素のある小学校区数やコミュニティ数等の数字は明記しない方がよい。総論として意味が伝わればよい。()
22		川西市の特産物である「無花果(いちじく)」についての記述はあるが、市内には栗をはじめ、他にも特産物があるため、「農業」という括りを地域資源として記述したらどうか。()
23	【第1部】-第3章- 「時代の潮流とまちづく りの主な課題」 【第2部】-第4章- 「つながり(ライフテ マ)の方向性」 (原案12・34ページ)	「地縁」と「志縁」の意味合いについて子どもたちに伝え、子どもたちで考え、そして将来、子どもたちでつながりを形成していくことが大切である。()

	該当箇所	基本構想原案に対する個別意見
24	【第1部】-第3章- 「川西市民の実感と意識」 (原案13～18ページ)	市民意識調査の回答者属性についてももう少し記述すべき。例えば、この調査における回答者の年齢構成割合と全市の年齢構成割合を比較すると、概ね合致するのかが、かけ離れているようであれば、この調査結果は市民全体としての意見を反映していることにならない。()
25		中学生に対する設問はこれで妥当だが、市内在勤者に対してアンケートをとっていないのは好ましくない。川西市に対する満足・不満足度合いの大きさが転出入に影響を及ぼすことから、人口動態の中でも「社会移動(転出入)」に関するデータは、市民意識を反映する大きな要素である。()
26	【第1部】-第3章- 「川西市民の実感と意識」 「川西市民の『幸せ』の実感と意識」 (原案13～22ページ)	「あるべき姿」と「現状」のギャップ(=問題点)を今後どのように解決へつなげていくかを示すことが大切である。その意味では中学生の意見も重要である。()
27	【第1部】-第3章- 「川西市民の実感と意識」 (原案14ページ)	「産業」、「観光」、「文化」は、まちづくりに欠かすことのできない重要な要素であるにも関わらず、市民意識調査結果では該当施策の重要度が低くなっている。()
28		「21.観光の新興」、「22.共感・共生のまちづくり」、「23.参画と協働のまちづくり」の推進は第4次総合計画の柱施策であると考えますが、市民が捉える重要度はいずれも低い。「19.産業の新興」も含め、結果として重要度が低く表記されているものの、今後のまちづくりにおいて非常に重要な項目となるため、ギャップについて補足する必要がある。()
29		「22.共感・共生のまちづくり」、「23.参画と協働のまちづくり」に対する重要度がなぜ低いのか。むしろ、重要な施策であるという意識を向上させるべき。()
30		「7.学校教育環境の整備」に対する重要度がやや低い結果となっているが、学校と地域が協力していくシステムを作っておかないと、一過性の教育になってしまう。「トライやるウィーク」等に取り組んではいないものの、学校と地域・家庭が交わる機会をさらに増やし、協働の視点をもって学校の存在を大きくしていくことが大切である。()
31		重要度と満足度の関係図が中心に固まって見づらいので、スケールを調整すべきという意見が出たが、そうすると逆に差を大きく見せてしまうことになるのではないか。()
32		重要度の「市平均2.27」、満足度の「市平均 0.01」という数値が高いのか低いのか分からないため、他市との比較を表記すべき。()
33		人口が減少していく中、施策としてどのような人口対策をとるかが重要である。()
34	【第1部】-第3章- 「川西市民の実感と意識」 (原案16ページ)	複数ある人口推計方法の中から、「コーホート要因法封鎖型」の推計結果のみを掲載しているが、1つの推計方法による結果のみを掲載するのはどうか。また、「コーホート要因法封鎖型」の文言については注釈を入れる必要がある。()

	該当箇所	基本構想原案に対する個別意見
35	【第1部】-第3章- 「川西市民の実感と意識」 (原案16ページ)	前文後段の記述において、都市間競争が激しくなる中、活動人口や交流人口を含め、現実として総人口を増やすことができるのか。()
36	【第1部】-第3章- 「川西市民の実感と意識」 (原案17ページ)	「地域力の分析」においては、基本的にプラス評価が記述されているが、分析結果から見える他の問題点はないのか。もっと踏み込んだマイナス評価の記述も必要ではないか。()
37	【第1部】-第3章- 「川西市民の実感と意識」 「川西市民の『幸せ』の実感と意識」 (原案18～22ページ)	P19のグラフによると、「地域」や「職場」に対する優先順位が想定的に低く、悪く言えば、自分と家族さえよければそれでよいという印象を受ける。また、P18の市民意識調査に関する分析結果とP19～20のグラフが示す関係性は整合しているのか。その意味で、P18の「意識」欄の「1.地域の様々な課題に関する関心度」が高いことに驚いている。()
38	【第1部】-第3章- 「川西市民の『幸せ』の実感と意識」 (原案20ページ)	各項目の「幸せに対する寄与度」において、コミュニティや文化等の項目では順位が低い結果となっているが、両項目とも重要な要素ではないか。市民の質をさらに高めていくことも重要である。()
39		「教育文化」の各項目における「市民の幸せに対する寄与度」の順位が低い結果となっている。要因を分析したうえで、今後の施策展開へつなげていくべき。()
40	【第1部】-第3章- 「川西市民の『幸せ』の実感と意識」 (原案21～22ページ)	ライフテーマに位置づけられている「生きがい」の範囲は、「子育て」や「教育」だけでは収まらない。()
41	【第2部】 全体 (原案23～36ページ)	「障がい者」の文言が記述されている全ての箇所に、生活面において長期の支障を抱える「特定患者」の文言を付け加えるべき。()
42	【第2部】-第1章- 「めざす都市像」 (原案23～24ページ)	多様な市民がそれぞれ違う価値観で生活しているため、まちの将来像も異なると思うが、子育てを前面に出るような「めざす都市像」にしてはどうか。例えば、「子育てを地域・行政で支えるまち」はどうか。()
43		「めざす都市像」のキャッチフレーズは、シンボリック化や個性化を図るとともに重点化に留意し、メリハリをつけるべき。()
44	【第2部】-第2章- 「地域別整備方針」 (原案25～26ページ)	都市計画マスタープランとの調整が必要であるが、市域を6地域に区分している点において、「中部・東地域」の区割りに違和感がある。()
45		都市計画マスタープランとの調整が必要であるが、「都心核」の記述において、「国の出先機関の誘致を図る」という記述を盛り込むべき。()
46	【第2部】-第2章- 「将来の都市構造」 (原案27ページ)	(45の意見に対して) 各種行政機関の立地についての考え方として、「集約化」又は「分散化」が考えられる。()
47		都市計画マスタープランとの調整が必要であるが、「都市連携軸」の記述において、市内公共交通機関である「路線バス」に関する記述を盛り込むべき。()

	該当箇所	基本構想原案に対する個別意見
48		都市計画マスタープランとの調整が必要であるが、「水と緑の連携軸」の記述において、一級河川を中心とした主要な河川が及ぼす好影響の事例として、「生物多様性に寄与する」という趣旨の記述を盛り込むべき。()
49	【第2部】-第2章-「将来の都市構造」(原案27ページ)	都市計画マスタープランとの調整が必要であるが、「市民の憩いの場を形成する」という趣旨の記述をいずれかの項目に盛り込むべき。()
50		都市計画マスタープランとの調整が必要であるが、「連携軸の設定」において、4つ目の連携軸として「歴史・遺産の連携軸」を新設し、多田街道についての記述を盛り込むべき。()
51		「第5次川西市総合計画体系構成の視点のイメージ図」がわかりにくいので、もう少しシンプルでよく伝わるデザインのほうがよいのではないかと。()
52		「(子どもを)産む」や「(子どもが)生まれる」、「(子どもを)つくる」などの政策(ライフシーン)を新たに設定するか、文章として前文に記述すべき。()
53	【第2部】-第3章-「行政主体の計画から協働の計画へ」(原案29ページ)	(52の意見に対して) 原案中のライフテーマ・ライフシーンの枠組みを崩さなければならぬかという点、そこまでの必要性はないと考える。今の枠組みの中で「子育て」を強調すればよいのではないかと。()
54		市民が日常感じている課題や問題点に対する今後の方向性を、「総合計画」という形で行政が提案し、内容について市民に承認されることが「市民目線(市民生活の視点)」の計画であると言える。()
55		施設管理をしている立場からすると、「どうすれば利用者に、より便利に感じていただけるか」と考えることが利用者視点に立つということである。行政の現場においても同様、市民目線(市民生活の視点)に立って対応することが大切である。()
56		「市民主体の政策提案」や「様々な行政活動への市民参画と協働」の推進を、行政自身が意識することも重要であり、それは市民目線(市民生活の視点)に立った行政運営であると言える。()
57	【第2部】-第3章-「行政主体の計画から協働の計画へ」【第2部】-第4章-全体(原案29・31～34ページ)	それぞれの政策(ライフシーン)をみると、「住む」をはじめ、多くは主語が「市民が…」であるが、「賑わう」の場合は主語が「まちが…」であり、混在しているので統一すべき。()
58	【第2部】-第3章-「行政主体の計画から協働の計画へ」【第2部】-第4章-「安全・安心(ライフテーマ)の方向性」(原案29・32ページ)	ライフテーマである「安全安心」な社会を実現するためには人々の「つながり」が重要なキーワードであり、それが下層のライフシーン「育つ」などへ波及するものである。つまり、各ライフテーマやライフシーンは有機的につながっているため、それを表現すべき。()

	該当箇所	基本構想原案に対する個別意見
59	【第2部】-第3章-「行政主体の計画から協働の計画へ」 【第2部】-第4章-「生きがい(ライフテーマ)の方向性」 (原案29・33ページ)	子育て関連は、「生きがい」というライフテーマ中の「育つ」に位置づけられているが、子育てに関する表現をもっと前面に出すべき。()
60	【第2部】-第4章-「暮らし(ライフテーマ)の方向性」 (原案31ページ)	中央北地区整備の推進に関しては、ライフシーンの「住む」の中で具体的に記述する、該当する複数のライフシーンに横断的に記述するという2つの考え方があがるが、ページの前文で少し触れるべきではないか。()
61	【第2部】-第4章-「暮らし(ライフテーマ)の方向性」 (原案31ページ)	最終行に記述の「……集う人が楽しみを創り出す環境が望まれています」は、「……集う人が楽しみを創出できる環境をめざします」の表現に修正すべき。()
62	【第2部】-第4章-全体 (原案31～34ページ)	自治会やコミュニティなど、人と人とのつながりが「安全安心」を支える基盤であり、行政の役割はその支援である。()
63	【第2部】-第4章-「安全・安心(ライフテーマ)の方向性」 (原案32ページ)	市民がボランティアでパトロールをするなど、すでに地域密着で備えや予防活動を行っている点を具体的に記述するとともに、今ある状況をもとに、今後どのような目標を設定するかを考える必要がある。()
64		公園のトイレ整備や閉じこもりの予防なども含め、高齢者が元気に安心して外出できる環境づくりを推進するとともに、高齢者関連施策を「安全安心」から「安らく」に移行させてはどうか。()
65	【第2部】-第4章-「生きがい(ライフテーマ)の方向性」 (原案33ページ)	政策6の「育つ」の目標に「…笑顔あふれるまち」とあるが、子育ての現実に合わせていない。それだけ子育ては大変であり、子育て環境が整っているまちがあれば誰もがそのまちへ転出したいと思う。()
66	【第2部】-第4章-「つながり(ライフテーマ)の方向性」 (原案34ページ)	市民の自発的な行動による「志縁型」の取り組みと、自治会やコミュニティなどを中心とした「地縁型」の取り組みを区別したうえで、政策9の「つながり」の中心を担うべき主体がどちらであるかを記述したらどうか。()
67		自治会に加入しない人や加入したくてもできない人など、地縁的なつながりを持たない人に対しても配慮し、支援していけるような目標や方向性を設定すべき。()

前期基本計画原案に対する意見

	該当箇所	基本計画原案に対する意見
1	全体	共有された部分は、「生きがい」「つながり」の部分も含めて、子どもだけでなく、大人も共に「地域で育つ、育てる」というスタンスを広げていくという前提に立つことである。それは「川西で暮らすことを楽しむ」ということにつながる。「川西で暮らすことを楽しむ」とは、川西の自然や文化、あるいは人や社会や地域や多世代がそのつながりの中で暮らすことを楽しむことであり、それによって、ベッドタウンとしての川西から「川西で暮らすことを楽しむ」人を育つ、育てることにより、人材が発掘されていくことが大切だ。それは、むしろ市民側の力が問われたり、そこでの活動が期待されたりするところではないかということが、全体で共有されている、生きがいに関するコンセプトである。()
2	施策2	道路等の施設も、これからの高齢化社会であるが、ユニバーサルデザインを求めた設計施工、問題のあるところは直していくという方向性も大事なポイントである。()
3		公園の規模と目的を別に考えなければ、「公園を満足して利用している市民の割合」が多いか少ないかという施策の評価指標がはっきりしないのではないかと。()
4	施策3	利用者の視点から公園の整備を進めた方がよいのではないかと(トイレのない公園が多い)()
5		「わがまち公園」という企画を提案して補助を受けながら、地域自らが管理するような公園ができないか。()
6	施策6	中央北地区という市の将来を左右する大きな開発については、地権者と事業者、関係者だけで議論するのではなく、住民の声を反映させる、あるいは住民が参加できる部分が必要。単に店舗や事務所や公共施設等の施設だけではなく、地域全体である種のマネジメントを住民参加、市民参加で行って、楽しいまちにしていく方向もあるのではないかと。市民の声が反映されないまちは寂れてしまう懸念があるのではないかと。むしろ、住民が参加してつくる方がにぎやかなまちになって、将来、経済的にもよいのではないかと。()
7		バスにしても公共交通という意味では重要な役割を担っていて、CO2の削減などにも寄与するところがあるので、公的な交通体系を整備する必要がある。()
8	施策7	指標の名称が重複したり、意味がわからなかったりしたものがあるので、それは整理してほしい。()
9		バスの便の悪いところがあり、増便をしても事業者の効率化、損益もあってなかなか進まない地域もあるので、例えば、地域の幼稚園のバス利用等も含めて、市民の中で事業者と相談してそういう資産を活用できないか。()
10	施策8	市営住宅の利用率、空室率、それから特に入居希望の倍率をアップしていかなければならないという議論で、そういう指標を入れてはどうか。()
11	施策9	高齢者が利便性が高い駅前を中心市街地の方へ移動すると、団地に空き家が多くなるので、若い世代への家賃補助や、空き家の情報提供、有効活用への促進支援等、不動産の地域での有効な循環を考えなければならない。()

	該当箇所	基本計画原案に対する意見
12	施策10	アンテナショップをもっと目立つところにつくった方がよい。()
13		人が集まる場所、コミュニケーション空間を地域の商店会等の主催で、行政などが補助金の支援やPR等の支援をしながら、賑わいを取り戻せるような動きを進めて、成功事例を作っていけばまち興しになるのではないかと。()
14	施策11	通行量も15～20年前と比べると駅前に人が減って、郊外に移っているような傾向があるので、何とか取り戻したいという課題があるが、そのためにはキャラクター等も使いながらPRが必要。()
15		事業者の役割がメインになるが、市民の役割も結構あるのではないかと、市民が中心市街地を訪れて賑わいづくりに参加することになるので、市民参加の仕組みをつくってはどうか。()
16		「アステ川西」は、賃料が高いのではないかと、稼働率を上げて少しでも収益を増やした方がよいのではないかと。()
17	施策12	イチジク、桃、イチゴもブランド化を目指しているが、成功していないので、スイーツ等の商品開発やPRをもう少し上手く進めていけばよいのではないかと。()
18		農家人口がなかなか増加しないので、「農業は儲からない」というところに対してもう少し支援できる仕組みがないかと。()
19	施策13	市の就労サポートセンターは、就労支援の相談窓口にはなっていないが、就労体験等、受け皿がまだ少ないので、採用すると事業者にメリットがあるのかどうかということも考えて踏み込まなければならない。()
20	施策14	歴史とのつながりが一番のポイントではないかと思われるので、歴史の活用の仕方を工夫して、世間一般のものよりも少し掘り下げたものがあればよいのではないかと。()
21		ここにも仕掛けとして市民が入れば、市民自身がプレゼンターとなって各地で宣伝して回ることもあるのではないかと考えられ、市民やNPOの役割があると思われる。特に、NPOは施設の管理等、かなり関わるのではないかとということで、その役割を強調したい。()
22		「源氏の川西」をもっとPRできないかと、多田駅から多田神社までの古来からの参道を整理してもう少しPRを考える必要がある。()
23		里山、ハイキングコースも含めて整備して、観光資源をもっと有効に活用してはどうか。()
24	施策15	文化都市を売りにしている割に、スポーツに比べて文化の施策が少ない。()
25		北陵、けやき坂の方の多目的グラウンドをもっと活用するために、各種市民大会の企画をもう少し行えばよいのではないかと。()
26	施策16	健診を高めて、市民全員が健康であるという状況をつくるのが大事である。()

	該当箇所	基本計画原案に対する意見
27	施策17	夜間の応急診療を含めて、総合的な医療体制の整備が必要である。()
28	施策18	病院経営は多難な時代にきているが、ある意味白紙化のような形で、住民の意見を聞きながら、将来的なあり方も含めてどうするか。ただ、それまでの期間は頑張ってもらわなければならない。()
29		市立川西病院は広域的に医療の役割分担を図って、専科で生き残りを目指すような工夫もしてはどうか。()
30		看護師の数が多くはないか、それに対して医師の確保というところを根本的に考えていかなければならないのではないか。()
31	施策19	高齢者や障害者の福祉なども含めて社会参加が鍵になるだろう。高齢者の生きがいも含めて、あるいは障害者の社会参加、自立、雇用なども含めて、大事である。()
32		福祉委員、民生委員の支援者層の裾野を広げる必要があるのではないか、つまり支援する人をさらに支援する仕組みが必要ではないか。()
33	施策21	高齢者の生きがいは安全安心よりも、むしろ「生きがい」という項目があるので、そちらではないかという意見があり、指標ももっと前向きな指標が欲しい。もう少し高齢者の頑張りが見える指標が欲しい。()
34	施策22	障害者の生活基盤の整備で、補助金、NPO等を中心とした施設、支援する制度等について、ハードだけではなく、行政、市民、NPO、事業者等、それぞれの階層がハード面、ソフト面も含めて、できること、支援の強みを出し合って、総合的に取り組まなければならない。()
35	施策25 施策26	防災も交通安全も、住民と地域、自治会、地域連携を含めた地域の力が大事である。()
36	施策26	行政は個人情報、要支援者情報を持っていて民生委員の方に渡せるけれども、何かがあった時に動けるのは民生委員や自治会や近隣なので、その辺りの関係性を整理しないと、ただ渡しただけでは動けない。実際に大震災では市役所さえ2～3日は機能しなかったという実例がある。()
37		消防団の意義が重要になるが、今はあまり若い人たちの参加がなく、若い人たちにとって魅力のある仕事になればよいのだが、大阪や神戸に通勤していると、いざ何かあってもすぐに集まれないので、それは非常に難しい問題だ。()
38	施策28	猪名川町などで先行実施されているように、行政車両に回転灯をつけると、行政車両が動く時に青パトがまちを周る形になるので、犯罪の抑止効果がかなり期待できるのではないか。()
39		防犯カメラを設置している地域で抑止効果が高いという結果が出ており、県では1台20万円ほどの設置費に対して18万円くらいの補助が出ますので、そういうこともPRして防犯カメラの導入を図って犯罪抑止に努めてはどうか。()
40		行政の危機管理室、あるいは広域団体、防犯協会には防犯のノウハウがあるので、このようなところに気軽に相談に行けるように、普段からのPRも必要ですし、もう少し安全安心を高めるような体制にできないか。()

	該当箇所	基本計画原案に対する意見
41	施策29	自然環境は、山や田園地帯の自然環境を守ることと、都市部で市街地ごとの自然環境をつくるという二面から攻めなければならないのではないかと、里山を守りながら、殺風景な市街地に緑をいかにつくるかという、そのどちらも大事ではないか。()
42	施策32	女性のサポートという意味での保育を、もっと多面的に、認可保育所や認可以外の保育所も含めた視点で捉えていく必要があるのではないかと、いわゆる潜在的な保育ニーズを捉えて、それに対して施設、ソフト等を整備していくことが必要ではないか。()
43		待機児童の問題については、例えば、NPOも入れる領域がある。()
44		「地域で育つ、育てる」ということから考えると、家・地域・自治体・学校という多様な主体とつながる、特に地域と学校とのつながりが重要である。待機児童問題と施策33、34に関わる。()
45		行政の取り組むべきところは格差の問題であり、保育環境の格差や、保育所に限らず、公立・私立の幼稚園間の格差を埋めるのは、行政の力が求められる部分であるが、子育てのサークルやNPO等、多様な主体の参加によって、単にNPOが取り組むからとか、自治体に取り組むからということではなく、格差ではない、特色としての違いが発揮できる、そういう待機児童問題の解消が可能ではないか。()
46	施策33	子どもを巡っているいと困難な状況がある中で、それをいかに防ぐかということについて、虐待における通報の重要性、それに対する市の対応の重要性がポイントではないかと、指標にもそのような指標が反映されるとよいのではないかと。()
47		「明るく楽しい」の前の不安や危機を避けるセーフティネットとしての施策部分は、行政の役割だろう。ただ、その中でもファミリーサポート事業などはNPO等も関わられるし、多様な市民の参画が期待される。
48	施策34	非行、いじめについて、地域そのものがカバーできる部分があるのではないかと。()
49		子どもの安全は安全パトロールや学校協議会等で支える等、あるいは、子どもの居場所づくり、コミュニケーションに対するサポート等、役割は大きいのではないかと。特に、中学校の部活や、小学校の子ども会等、地域のスポーツ活動や文化活動を含めたものを指標の中に盛り込めた方がよいのではないかと。()
50		相談者支援は、相談者自身も支援される必要があり、これは長期間にわたる問題で、人格的な成長や就労支援等、多方面の総合的な支援に関わる部分であり、そこを市民が担うのは難しいので、一定の間、行政の関わりが求められる。特にお金にならない部分、長期間かかる部分について求められる。ただ、実際に活動しているところや問題意識を持って関わっているところがあるので、その連携づくりが期待される。()
51		例えば「児童の権利条例」は本来「子どもの権利条例」と訳されるものだと思うが、その中では0歳～18歳が関わっている。では、「児童の権利条例」について子どもの定義を川西市はどのように考えているのか。()
52	施策35	施策35は、学力の向上も大事であり、少人数学級も必要ではないかと、遅れている子どもの底上げも大事だろう。()
53		家庭教育も大事ではないかと、家庭でも勉強や塾通いをさせるだけでなく、施策36にも関係するが、モラルや礼儀等の教育も家庭、市民の責任ではないかと、そこをきちんと教育しなければコミュニケーション力に欠けるのではないかと。()

	該当箇所	基本計画原案に対する意見
54	施策35	学校でどのような取り組みをしているのか、ここの施策で書かれていることがどのように実際に取り組みられているのかという情報公開が期待される。そして、その取り組みが公開されることによって、地域・家・自治体等と課題の共有ができる部分があるのではないかと、そこから学校と地域や自治体との連携ができるのではないかと。また、それらの問題は川西に限った問題ではないことから、いろいろな先駆例の積極的な活用も期待される。()
55	施策36	研修について「地域で育つ、育てられる」という視点から、どのような形で学校が地域と関わっていくのか、教員が地域を学びの場にして関わられるのか、互いに良い関係を培っていきけるのかということを考えると、例えば、先生方が子育てで市民の活動の実態を知ったり、トライやる・ウィークで市民活動センターやいろいろな活動や地域を訪問したり、そういうことが研修やモデルケースとしてあるとよいのではないかと。()
56		見守りについては、市民や地域の力が問われるところだが、制度や体制や財政については行政側の関わりも必要だ。()
57		「自助」「公助」については、実はここに限らないので、なぜここだけに入っているのか。()
58	施策37	「誰もが学べる」ということで、特にこれは不登校の児童・生徒が社会的にも問題になっているので、不登校の数字も指標に挙がればよいが、それは政策レベルで挙がるのではないかと。()
59		不登校の問題に対してもNPO等がサポートするシステムがあると思うが、実際に行っているNPOの存在がわからない中で、これは市内だけではなく、もっと広域で考えた方がよい。()
60		いろいろな支援制度が整っている中で、特に相談体制については、子育てに関わる地域を含めた多様な主体との連携があり得るし、また、加配教員を置いている地域もあるので、そういうことも検討されてはどうか。()
61	施策38	健康については、食育等もNPOや家庭での教育が大事な点なので、その点での役割がある。()
62	施策39	教育環境は施設であり、いろいろな指標があるが、コンピュータ等、情報化の設備の購入も指標の一つになるのではないかと。()
63	施策40	生涯学習は、課題として利用者の固定化や高齢化等が挙がっているが、その対応策がもう少し明確に出された方がよい。()
64		生涯学習に関わっていない人が多数に上るのではないかとと思われるが、そういう人たちも生涯学習のニーズがないわけではなく、忙しい、生活が苦しい、あるいは体の調子が良くない等の理由でアクセスできない可能性が大きいのではないかと。そういう人に対しては、出かけて行ってサービスを提供する等、アクセスしやすくするような仕組みが必要ではないかと。()
65		生涯学習とは、公民館で行っているものだけではなく、NPOや市民団体がやっているもの、場合によってはカルチャーセンターで行っているものも含めて学習の一つである。()

	該当箇所	基本計画原案に対する意見
66	施策40	生涯学習もいろいろな活動が展開されている多様な主体の連携の中で培うことができるのではないかと。例えば、市民活動センターや男女協働参画センターと公民館や図書館との連携、あるいは、シチズンシップ教育や「川西学」「地元学」等の学習も多様な主体の連携によってできるのではないかと。()
67		「教える」「教えられる」ということではなく、地域の課題についての取り組み方の情報を持つ人たちが出会う場としての学びがある。子育ての問題や自然のこと等、いろいろな素材を基に出会う場としての学びの機会が提供されてもよいのではないかと、その出会いの中で、次の「川西で暮らすことを楽しむ」主体が育っていくことがあり得る。()
68	施策41	「文化遺産」については、川西は多田源氏発祥の地ということも含めて多様な文化遺産を有しているので、それを観光とセットにして資金を増やし、保全の費用をカバーできないかと。()
69		観光化するには、情報発信力をいかに増大するかという課題があるので、いろいろな仕掛けをしたり、チラシ一つにおいても、思わず手に取ってみたいくなるようなデザインのチラシを作ったり、そういうことを含めて、文化遺産をもっと振り返ることが重要である。これは市民のアイデンティティの頼りとするところであり、一度壊すと復元できないので、是非力を入れて取り組みたい。()
70		文化財だけではなく、自然として残っている中で本当に貴重な黒川の里山の資源がある。それに関わる保全ボランティアや文化財ボランティア等いろいろなガイドがおられる中で、養成プログラムもそうした人たちに支えていただき、活性化することを通じて地域の魅力をアップしていくことが、「川西で暮らすことを楽しむ」、あるいは「地域で学ぶ」「育つ、育てる」ということになる。したがって、そこで多世代が学ぶことが意識されて展開されることが、もう少し積極的に認知されて書かれてもよいのではないかと。()
71	施策42	人権と男女協働参画も含めて市民活動団体の役割が大きいので、そこにいかに市民を巻き込むかということが大事ではないかと。()
72		現状と課題の外国人の項目で「事件や事故」が前面に出ているのは拙いのではないかと。()
73		多文化、あるいは内なる国際化は重要な課題なので、例えば、「異文化、多文化を持つ人々との交流、また共生、国際化の重要性を踏まえ、そのための支援や啓発を行う必要がある」というような表現にするべきではないかと。()
74		「子どもの人権オンブズパーソン」について、いろいろな子どもについての相談窓口があるので、他の相談窓口とどのような機能の分担があるかということ、また、その認知において、最後の砦とも言える重要なところを置いている部分もあるが、その活動があまり見えていないのではないかと。どのような活動をしているのかということについての報告書が出されているはずなので、そういうことがもっと知られて、他の相談窓口との機能分担や役割分担、川西の子どもに関するところにおいてどういう位置を占めているのかということが意識的に見えることが活性化につながるのではないかと。()
75	施策43	DVに関しては、シェルター等も大事な話で、どこかに出してもよい。()
76		DVも含めて権力関係やプライバシーの問題に深く関わる場所なので、行政との連携を深めながら展開していく必要がある。()
77	施策44	「関わる」は、情報とコミュニティという性格の違うものが混在している。()

	該当箇所	基本計画原案に対する意見
78	施策44	情報は多様なツールを擁しているということで、最近ではFacebook等でリアルタイムに情報を流す仕組みがあり、若い人にとってはFacebookやTwitterは馴染のあるツールを含めて、年代層に上手くターゲットしたツールを使いながら情報を届ける、あるいは引き出すが必要になる。()
79		主体としての市民も、情報を知らない人が多いので、市民としても関心を持って情報に注目する、探る、見に行くということが必要ではないか。()
80		NPOも情報をもう少しわかりやすく市民に伝えるという、ナビゲーターのような存在になる必要がある。()
81		事業者もいろいろな機会を通じて情報をPRする役割を果たしてほしい。()
82		広報誌に対する高い評価があり、この方向で、「地域で育つ、育てる」「川西で暮らすことを楽しむ」を通じた川西とつながる人材発掘の方に展開していただきたい。()
83	施策45	コミュニティについても意見が出て、議論しなければならないところであるが、基本的には次の施策46に「地域分権制度創設に向けたあり方の検討」とあり、参画と協働のまちづくりの基本計画が作成中ということで、ここではあまり深くは出せない状況だったと思うので、そちらの方で議論をしていただきたい。()
84		特に、市民・自治会・コミュニティの役割は大きく、まさに地域分権の担い手になれるかどうか、力不足を懸念する声も一方ではあったが、これに期待しなければ市の自治体運営は難しいので、何とか頑張してほしい。()
85		2番目の項目に()が一つあるが、それだけでなく、これに加えて、「暮らし方や構成員の多様化に応じて、自治会も参加しやすいように活動の仕方を変えていく必要がある」という内容が書かれるべきではないか。()
86		自治会活動の支援が単に財政的な支援に集約されず、地域の自治活動の活性化につながるように自治会自身も取り組むということも挙げられた。()
87		「自治会に支援が必要」「ボランティア活動はまだ活発ではない」という書き方に分かれているので、2番目と3番目の のところに、「川西市にある自治会やボランティア、NPOといった多様な主体同士が実際のまちづくりで連携できるように活動を進めていく」という項目と、「それを支えるために、社協や市民活動センターや行政が連携、協力を進める」というような一項目が入った方がよいのではないかと。また、アンケートの項目について、「ボランティアやNPOなどの活動に参加する人の割合」という言い方で括られているのに違和感があり、ボランティアとNPOはかなり違うところがあるので、今後は分けて取られるべきではないか。()
88	アンケートの項目について、「ボランティアやNPOなどの活動に参加する人の割合」という言い方で括られているのに違和感があり、ボランティアとNPOはかなり違うところがあるので、今後は分けて取られるべきではないか。()	
89	施策46	「行政経営改革大綱」については、専門的になるので、まとめて議論をした。基本的には職員研修も含めて職員の能力を高めていくことが市民にとっても得することになるので、予算も含めてしっかりと取り組んでいただきたい。()

	該当箇所	基本計画原案に対する意見
90	施策46	情報システムに関しては、特にセキュリティの問題が大きいので、その点を十分に注意していただきたい。()
91		情報も困り込みがあるので、いかにコストダウンして上手く運営できるかどうか知恵を絞っていただきたい。()
92		指標については、わかりにくい指標があるので、説明が必要であるとか、点数制の場合はどうなのか、あるいは、市民が主体なのか、職員にアンケートをしているのかどうか、原則として一目でわかるようなタイトルを付けていただきたい。()
93		「協働の実践に当たって」ということで、協働の実践に当たっては、主体同士の話し合いを積み重ねる、主体同士がどのように役割分担をして、何が共有できるのかということについて話し合いを積み重ねることが大前提であるということ、また、その協働は、市民活動と行政の間だけではなく、市民活動同士の間でもそうした前提で実践を積み重ねていくことが求められる。()
94		地域自治区制度的なものについて、「地域の課題解決を担う主体を制度化するときには、担う主体の自主性や自立性を基本的に重んじ、画一的なつくり方は避けるべきである。その際に、役割や機能やサイズも含めて丁寧な検討が望まれる」という文を入れてほしい。()

前期基本計画原案に対する意見

該当箇所	基本計画原案に対する検討シートによる意見
95	指標が、アンケートの主観的「意見」に多く依拠しているのは、問題があるのではないが、事実や行動をベースにした、やや客観性のあるものとする必要がある。()
96	施策に対する指標は、単にその下の事業の指標を代表するとか平均を取るとかいう発想ではなく、施策の「目標」はどこにあるのかを最もよく示すものがよい。()
97	指標の数値で、現状が90%以上のもの場合は、今後あまり上昇することはなく、あっても当然のことなので、あまり良いとはいえないのではないか。()
98	母集団は個人なのか世帯なのか、など、指標の数値の母集団が曖昧なものを明確化してほしい。()
99	現状と課題では、川西市でどうなんだ、ということ短文の中で掘り下げていただきたい。以下同様である。()
100	指標に「街並みを美しいと感じている市民の割合」を追加してほしい。()
101	川西市は山が多く緑豊かな市と考えられている。しかし、主要幹線道路沿いや都市部の緑化(樹木)については進んでいないように思う。(伊丹市、宝塚市対比)()
102	「感じている市民の割合」の他に、何か「客観的」指標もほしい。()
103	川西池田駅、北伊丹駅に近い踏切の閉鎖時間が長過ぎる。(下降が早過ぎる)上昇直後の通行が混雑し危険。JRはキメ細かく管理して遮断器の下降を調整するべきである。()
104	人が多く集まる市の中心部に、市、JR、阪急電鉄が協同して、利用料金の安い駐輪施設を増強すべきである。()
105	市民や事業者の、道路を公共空間として活用すべきというマナーが大事。()
106	指標に「住民管理が行われている公園数(割合)」を追加してほしい。()
107	市全体としての公園数は多いようだが、南花屋敷・加茂地区の数は余りにも少ない。最明寺川沿に小規模公園新設と合わせて対処する必要がある。()
108	高齢者が外出を控える理由にトイレの問題がある。市の下水道普及率が高まった現在、トイレを増やすことによる維持管理の負担にも軽減される。()
109	公園遊具の更新の際は、利用者の意向調査が必要。えてして業者の推薦遊具などを無批判に設置することがある。()
110	指標の「水洗化率の普及率」とは、どのような数値か。意味をなさない。ほぼ数値の上限であるようである。「更新した管路の割合」等に変更してはどうか。()
111	上水道については災害時の水源確保が必要。公共下水道については普及率はもう頭打ちと思える。これ以上の整備は合併浄化槽など他の選択肢を活用すべきだ。()

	該当箇所	基本計画原案に対する検討シートによる意見
112	施策5	JR南側の再開発具体像が見えない。副都心構想はないのか。()
113		再開発はいたずらに容積率のアップばかりを考えない方が将来の禍根を残さないことにつながる。阪神淡路大震災後の再開発では、その辺の失敗で、現在空き家が多発して困っているところが多い。()
114	施策6	民活導入とあるが安易なPFIによる失敗例が多くある。()
115		市民の声を反映してほしい。()
116	施策7	指標の「路線バス運行支援の利用者数」は意味不明である。()
117		市バスを有さない市としては、コミュニティバスについて地域と一緒に考える方向を目指してはどうか。()
118		予定された教育プログラム以外への対応を求めたい。(地域が仕かけるイベント等)各校(小学校毎)に地域との関わり方の取組みが違うと感じる。教育委員会と県採用職員との想いのばらつきが原因か。()
119		現代社会において、公共交通は地域の生命線と考え、多少の赤字が出てでも確保していく姿勢が必要。()
120	施策8	指標として、「公営住宅の空き家率」あるいは「改修済み率」を提案する。()
121		公的住宅を維持する必要があるのか。()
122		川西市の現状はよく判らないが、大阪市や神戸市等で生じている問題はないか。全体的には縮小方向に向かっているのではないか。()
123	施策9	指標として「団地の高齢化率」「若い世代(40代以下)居住率」を提案する。()
124		千里や明舞の例を参考にほしい。明舞では大学と連携して学生ボランティアの拠点を団地内に置き、長期の支援を進めている。また、再開発が各戸敷地面積の低下を招くなど団地の質の低下につながらないように配慮する必要がある。()
125	施策10	第2名神のIC周辺の活用のプランはあるのか。()
126		観光(文化)にも力をおいた財政基盤強化、助成金もUP、商工会の積極的活動を、そして行政との連携を求め。()
127		経済の血液である資金循環を拡大することが産業施策として極めて重要だ。そのための融資、利子補給棟の施策に加え、地域振興券的なものも有効だ。また、市内第一の産業である不動産の振興のためにも、住宅の流通を拡大する施策も必要だ。また、他地域に比べシェアは小さいとはいえ、製造業の振興は、他産業への波及効果が高く、不可欠の施策だ。()
128	施策11	市民の声を反映してほしい。()

	該当箇所	基本計画原案に対する検討シートによる意見
129	施策11	ここで必要なのか。()
130	施策12	指標の「水田活用面積」は意味不明である。()
131		市内の食品短大との連携はやっているのか。なければ是非必要。そのため市内の製造業との連携はできないか。()
132	施策13	指標の「意欲を持って仕事に励んでいる市内勤労者の割合」などは測定可能か。「励んでいない」と答える人があるのかどうか。「非正規雇用者率」、「市役所の非正規勤労者率」へ変更を提案する。()
133		ワークライフバランスや女性の就労促進が大事。また、退職者の技能活用のための組織づくりも大事だ。()
134	施策14	指標の「姉妹都市香取市の認知度」では、今時「姉妹都市」というのか。この指標に意味はあるのか。「川西市」の認知度、市外人アンケート、無理なら「新聞への登場数(いい案件で)」にしてはどうか。()
135		多くの歴史遺産や歴史関連施設を結んだ川西歴史街道を新設、多田街道(伊丹市では表示板にて案内)の整備復活(多田街道、旧西国街道)してほしい。()
136		ダム湖湖岸道路からは見事な紅葉が見られる。春はエドヒガン桜を、秋は紅葉と名産のクリを観光資源にしたい。湖岸道路と黒川地区を含めたサイクリング道路ができるとうい。()
137		PRする方法を議論したい。()
138		市民農園や契約市民制度など繰り返し他地域の住民が訪れる仕掛けをたくさん作るべきだ。()
139	施策15	現状と課題では、文化1に対して、スポーツ3、「主な施策展開」でも同じ数。これを見ると、川西市は「文化都市」ではなく「スポーツ都市」のようであるが、スポーツ都市としてのブランド性はあるのか。都市目標はどちらか。()
140		指標の「川西市文化・スポーツ振興財団(文化部門)の自主事業の集客率」では、文化とスポーツでは集客の質が全く異なるのではないか。これをどんどん増やすことに意味はあるのか(結局は、予算投下に比例するが)。「創造活動に参加し人の割合」(プレイする方と鑑賞する方と分けるかどうか)にしてはどうか。()
141		シャワーや休憩室など快適環境を整備すると他地域からもスポーツのためにやってくる。()
142	施策16	指標の「食事することが楽しいと思う市民の割合」の意味は何か。禅僧なら「楽しみではなく、生きるための義務」と答えるかも知れない。それも、正解。また「楽しくない食事」=「苦痛としての食事」とは。もっとも、個食の時代、楽しくない食事をしている人も多い。それは、食育の問題ではなく、独居老人(一人暮らしの人々)などの問題である。「各種健診を受けている市民の割合」とかに変更してはどうか。()

	該当箇所	基本計画原案に対する検討シートによる意見
143	施策16	子供の3カ月検診などが児童虐待の発見につながるなど、検診の効果は大きい。食育は学校の効果が大きい。()
144	施策17	休日応急診療所の社会的意義は少ない。()
145		大阪府内も含めた広域での医療連携が大事。母子医療、障害者医療なども必要。()
146	施策18	指標の「患者満足度」はすでに99%で、これをどこまであげるのか。100%というのは、嘘っぽくなる。()
147		市民病院が必要か否か、財政面から根本的に見直す時期と思う。()
148		なんといっても医師の確保が最優先。3千万円出しても確保すべきだ。病院経営の改善には看護婦の人件費に手をつけないとできない。()
149	施策19	指標に「近所の民生・児童委員の名前(とかいろいろ)を知っている人の割合」を追加してほしい。()
150		鬱、自殺対策なども含め、保健婦、看護師などの活用が不可欠。正規職員採用も必要。()
151	施策20	「主な施策展開」へ、「介護する側へのケアの必要性」を追加してほしい。介護燃え尽き症候群とか、介護現場では大きな問題となっている。()
152		指標の「…認知症サポーターの割合」は進んでも数%止まりではないか。むしろ「実数」を指標としたらどうか。()
153		指標に「見守りネット(言い方は実際に合わせてください)への参加市民の率」を追加してほしい。()
154		介護する側のケアについて明記してほしい。()
155	施策22	指標に「グループホーム(例示)の定員数」、デイケアでもよいので追加してほしい。()
156		授産施設の商品の優先買い取りや販路開拓など、就労補完の施策も必要。()
157	施策23	指標に「障がい者法定雇用率を達成している事業所率」を追加してほしい。()
158	施策25	指標に「交通事故数」を追加してほしい。P66に犯罪件数があるので、このデータは入手可能。()
159	施策26	指標に「地域防災組織(自主防災組織)の設立数(率)」を追加してほしい。()

	該当箇所	基本計画原案に対する検討シートによる意見
160	施策26	消防団は“規律正しい若者達の集団”である。消防団が消防活動以外にも、防犯・防災・その他活動も行えるような状況をつくり、地域の若者が入団したいと思うような人気のある集団になればと思う。指標に「消防団の団員数」を提案する。()
161		防犯、防災活動への参加促進策も必要。()
162	施策27	指標に「防災への備え(避難袋等)をしている市民(世帯)の割合」を追加してほしい。アンケートからの意識ではなく、行動(実態)を把握する。()
163		発生した位置を表現することが難しい場合が多い。道路名、川名、橋名、交差点名等が親しみやすく、覚えやすい名称になっていると表現しやすい。現在の道路名も川西名称にしてマップに表されていると便利である。()
164	施策28	指標の「消費者トラブルに遭わない心構えができていると感じている市民の割合」は、事実とは異なっている、ほとんどの人ができていると答える。「何かの行動」をとらえるべきで、「消費者相談で解決した課題の件数」とかを提案する。()
165	施策29	指標の「市民の意識」だけに依拠しているのは、あまり現実を反映していない。「自然保護活動に参加している市民の割合」とか、「行動」実態でとらえる指標も必要ではないか。()
166		事業者は事業所の周辺を、市民は自身の住まい周辺を美化するようにつとめることが大切である。(清掃、除草、樹木の剪定等)()
167	施策30	川西市測定BOD 0.6は“キレイな水”だが、国土交通省が発表している「全国一級河川水質ランキング」では毎年“ワースト5”が新聞で報道されており猪名川のイメージを悪くしている。現在、調査方法を平等にするように調整している。(BODの数値は指標から外す)()
168		川西市の名称に関係する猪名川は重要な位置づけとし多くの市民が親しみをもって楽しめる場所でありたい。国交省(河川事務所)との連携が必要。川遊び、散歩、ウォーキング、釣り等。()
169	施策32	病児保育NPO事例として、NPOノーベル(大阪市)がある。役割分担のNPOの役割もある。()
170		役割分担の行政に、公立保育所+認可保育所の定員を増す(共働き家庭増加への対応)を記載してほしい。()
171		指標に、「公立8+認可11以外の保育園(所)・塾・教室に入所している児童数」(↘)を提案する。()
172		役割分担の行政に、児童公園(小規模公園)を一定範囲毎に設置(外遊び時間を確保)を記載してほしい。()
173		日本、中でも阪神間は女性の就業率が低い地域です。これまでずっと待機児童数に見合う対策を取っては翌年また新たな待機児童が発生と言うことを繰り返している。すなわち潜在需要はまだ十分に掘り起こされていない。したがって全体の児童数が減っても当分の間、増えるものと言う前提で進める必要がある。()
174		総合的な組織を作ってもそこですべてを完結することはできない。さまざまな機関の連携を、単に言葉だけでなく、また単に組織作り、体制作りだけでなく、実践を伴った支援が無ければ意味がない。そのための訓練等が大事である。()

	該当箇所	基本計画原案に対する検討シートによる意見
175	施策32	こども園はないのか。()
176	施策33	役割分担のNPOの役割あり。()
177		指標の4番目「必要な子育て支援施策が実施できていると感じている、中学生以下の子どもを持つ市民の割合」は意味がわかりにくい。「中学生以下の子どもを持つ市民の中で、必要な子育て支援施策が実施できていると感じている人の割合」にしてはどうか。ただし、本人が回答するかは疑問。()
178		役割分担の市民に、積極的に通報、を、行政に、通報に対する親身の対応、一步踏み込んで対応できる体制をつくる、を記載してほしい。()
179		指標に「児童虐待の通報・相談件数：行政の対応件数・・・対応比率」(ノ)を提案する。()
180		乳幼児健診に来ない子供をすべてつかんで、それへのアプローチをすることがまず児童虐待防止の一つの取り組みの第一歩である。()
181	施策34	指標の「若者が夢や希望を持って逞しく成長していると感じる市民の割合」は、オリンピックの印象のような感じがあるが、あまりに一般的で回答の意味をなさないのではないか。()
182		川西市は陰湿な行動によるいじめを抑止できているのか。(全生徒と教師の交換日記(中学校)の効果)()
183		役割分担の行政に、中学校における部活動の種類を増す、文化系も増し全員が入部できるようにする、市民には、登下校中のいじめ行動を見守る、を記載してほしい。()
184		指標に、「中学生の部活動への入部割合」「小学生の地域におけるグループ活動への参加人数」を提案する。()
185		役割分担の行政に、社会全体で祝える式典へ移行(団体や事業者の出席)、を記載してほしい。()
186	施策35	指標の1番目および2番目「学習内容を・・・」というのは、小中学生が答えるのか。回答に信頼性はないと思われる。()
187		役割分担の行政に、教師の研修と人事評価、ランクの低い教師の教育。(1人の教師が多くの生徒に影響を及ぼし悪い場合は取り返しがつかなくなる。)を記載してほしい。指標に「教職員研修対象者の出席比率」を提案する。()
188		学校の重要性は、教師、それ以外に校長の熱意ある姿を見せてほしい。()
189	施策36	現状と課題の3つ目ここで「共助」、「公助」の「精神」を教える必要はあるのか。「共助」の意味が違うのでは。役割分担でNPOの役割あり。指標6番目「子どもの・・・」保護者の内の割合か。全市民に対する割合か。()

	該当箇所	基本計画原案に対する検討シートによる意見
190	施策36	役割分担の行政に、教職員の道徳(倫理)研修を実施(児童・生徒へ確かな道徳教育を行えるよう)、を記載してほしい。市民には、子ども見守り、子どもに話しかけ易い状況づくり(子どもは見知らぬ人からの話しかけに注意している)、家庭教育(道徳面、相手の権利・自身の義務について)、を記載してほしい。()
191		学校の重要性は、教師、それ以外に校長の熱意ある姿を見せてほしい。()
192		子供だからと言って枠にはめて責任を減免していくのではなく、子供の時から社会的責任を感じさせるトライやるウークなどの取り組みをさらに広げる必要がある。()
193		自助、共助、公助はここで言うのではなく、全体の基本的姿勢だと思う。今回の基本構想基本計画はそのあたりの整理ができていない。()
194		施策評価で学校に行くことが楽しくないと感じている子供に対する支援をどうするか。()
195	施策37	指標の「経済的理由による長期欠席児童生徒数に占める割合」は適当か。「不登校児童数」はどうか。()
196		食育と地産地消が大事。()
197	施策38	現状と課題の2番目に、「食育」について触れたらどうか。()
198		役割分担の行政に、食育が生徒の成長の大きな要素と判断し中学校での給食を実施する、を記載してほしい。()
199		指標に、「中学校における給食実施校数」(ノ)を提案する。()
200	施策40	現状と課題の1番目の「利用者が固定化している傾向があります。」の対応の方向は。「生涯学習」を教育委員会が行っているものに限定していないか。社協やNPO等の実施する講座、民間の学習機会もあり、これらも含むべきではないか。()
201		役割分担の行政に、“みると mi-ru-to”に「生涯学習センター」を記す等、市民が利用しやすいようにPR、を記載してほしい。()
202	施策41	役割分担の行政に、文化遺産の維持・保管し後世に良好な状態で遺すことは我々の責務、しっかりと対応すること、また、市内・外の人々にも見てもらえるように「文化財巡りコース」や「歴史街道(多田街道)」を整備していく、を記載してほしい。()
203		「活用」の重複と施策No1の14と連携が必要。()
204	施策42	現状と課題の4番目、なぜ、現状の主要部分に「事件や事故」がでてくるのか。外国人住民への偏見を助長する記述ではないか。外国人市民とは、定住外国人のことが、もっと広くとらえるのか。()

	該当箇所	基本計画原案に対する検討シートによる意見
205	施策42	確かな道徳(倫理)教育が身についた人は、人権に関する問題は生じさせない。()
206		役割分担の行政に、道徳教育は幼・小・中学校で行なう、を記載してほしい。定着すれば30年後、50年後に素晴らしい社会が形成されるだろう。(“自子主義(ウチの子は)”や“自由 = 勝手気まま”が消えていく)()
207	施策43	施策展開に、「シェルター」(官民を問わず)がなぜないのか。()
208		指標に、「小・中学生の道徳 (倫理)について認知、理解している割合」を追加してほしい。()
209		役割分担の行政に、“みると mi-ru-to”に「男女共同参画センター」、を記入してほしい。紹介しPR。(P52、子育て支援情報、には記入あり)()
210	施策45	指標の1番目の「自治会やコミュニティの活動に参加する人の割合」の、「参加する」の範囲はどこか。()
211		役割分担の市民公益活用団体に、自治会コミュニティがボランティア活動団体を立上げ又は育成又は支援、を記載してほしい。()
212		市のボランティアセンターはどこにあるのか。できれば庁舎内にボランティアグループの総合連絡拠点があることが望ましい。ただし、特定のグループが自分のところの事務所として使わないようにすることが必要。()
213		県のボランティアプラザの登録制度を使って相互連携を促してほしい。()
214	施策46	地域分権をすすめるには、コミュニティ及び自治会組織の運営面を整えることから始める必要がある。(コミュニティ・自治会組織の脆弱さ、財政運営面の組織的未熟さの問題)()
215		地域自治区は16万人の市として必要か。いるとしたらどういう役割を持たせるかよく検討が必要。()
216		行財政改革は単に経費を削るのではなく、行政がやるべきことを十分にやるための手段であると思う。行政はサービス業であり、基本的には職員が走り回って市民サービスを行うのが本筋だ。したがって職員数を減らすよりは、給料を下げて対応し、逆に職員が走り回る経費はむしろ増やしていく。事業によっては事業費は零でも職員が動くことによってできる事業も多い。また、専門職は期限付きでもよっぽど悪い人は別として、一般的には長期雇用が必要。今後公務員制度の改革の方向によっては、労使関係を民間と同様、労働関係法にのっとって行う必要がある。()
217		雇用条件が悪くなる中、職員のやる気を一層高めていくための様々な取り組みが必要だ。仕事以外でも地域活動などに貢献している職員も表彰するとか、マイナスを補うことばかりでなく、プラスを増やしていく方策を実践してほしい。()
218		施策47 県下4市1町の連携以外に、隣接する大阪府下市町との連携についてはどうか。()

	該当箇所	基本計画原案に対する検討シートによる意見
219	施策47	役割分担の行政に、再任用職員の有効活用、職歴に応じコミュニティへ派遣し地域分権推進の原動力とする、を記載してほしい。()
220	施策48	役割分担の行政に、サポートを順次停止していく、を記載してほしい。Windowsは見限ることが必要である。()
221	施策49	指標の2番目の「部下や後輩を育成していると思われる職員の割合」はわかるのか。「と思われる」でいいのか。指標としての正確さが担保できるのか。()
222		役割分担の行政に、職員を人事評価し適正配置する。職員の能力開発を行うための研修制度を確立し研修施設を充実する、を記載してほしい。()
223		役割分担の行政に、情報システム関連の財政支出を細かくチェックし見直す、を記載してほしい。(ソフトの維持管理費等、無駄を含めて積上がり盲点になっていることが多い)()
224		市民や事業者と一緒に現場で関わる機会を共に成長していくことが大切である。()
225	施策50	指標に「公共施設の耐震化の進捗度」を追加してほしい。()
226		指標に「市有施設の耐震補強施行完了の割合」を追加してほしい。()

前期基本計画原案に対する意見

	該当箇所	基本計画原案に対するその他意見
227	施策1	都市の自然環境について施策29とは分けて考えた方がよいと思う。()
228		役割分担は、住民主体で自分たちのまちの環境を守るという支援が大事だと思う。事業者も開発に関して役割がある。都市景観も含まれるなら、NPOの役割も大きいと思う。()
229		都市景観に関する指標もほしい。()
230	施策2	放置自転車の活用について、文化施設等、メインの施設をつくって、その周辺をレンタル自転車で利用するのはよいと思う。()
231	施策3	川西市の公園は、地域による偏りが大きく、近くに子どもを遊ばせるところがない地域もある。木々の緑豊かで憩える公園が北部は多く、この近辺(南部に少ないので)にほしい。()
232	施策4	下水道の未整備地区の問題について、行政の役割分担として、地域の状況に応じていろいろなメニューをどのように使いこなすかということを考えなければならない。()
233	施策8	指標が未設定になっているが、これは現状維持ではないか。()
234	施策10	第2名神のインターを活用したプロジェクトを考える必要がある。()
235		若者の活用、さらに、観光と文化をバラバラにしないように。()
236	施策16	食育について、ソフト事業的な部分は、もっと市民団体等に任せて、どうしても採算性が合わなくて事業者や市民団体ではできないところのみ行政が担った方がよいのではないか。()
237	施策21	シルバー人材センターだけではなく、シニアの方たち自身が参加しやすい仕組みが必要。少しでも収入が得られるような活動を見つけてはどうか。()
238	施策22	指標では、定員数は増えた方がよい。収容すればよいというだけの話ではないという、複雑な関係性がある。()
239	施策23	役割分担の「事業者」のところに「積極的に障がい者を雇用します」という文を入れた方がよい。()
240		障がい者の就労を支援するNPOが新しいコミュニティ事業を計画している。市民公益活動団体の役割も大きい。()
241		基本的なところを支えるのは行政にしかできない。()
242		継続して取り組んでいるところはノウハウを持っているので、ノウハウを持った専門性のあるNPOを支える、つまり、支援する人を支援することによって継続的な体制が可能ではないか。()

	該当箇所	基本計画原案に対するその他意見
243	施策23	バリアフリーについてNPOは調査までで、そこから先のハードの整備は行政の役割になる。民間でできる部分と行政の分業が必要。()
244	施策24	行政の役割分担として、「生活保護受給者に対する調査は継続して行う必要がある」と記載してほしい。()
245		社会生活自立や日常生活自立の支援等、市民公益活動団体の役割は大きい。()
246		事業者も、就労を受け入れる役割がある。職業訓練を行うことが前提であり、就労教育は経済的自立になる。()
247		行政だけではなく、事業者も市民も役割がある。いろいろな切り口で相談ができるような、大きなネットワークが必要である。()
248	施策27	災害時要援護者支援制度の実動は市民である。()
249		個人情報の件は、十分に対処してほしい。()
250		施策26は自衛的な発想で、施策27は行政にしかできない防災という分類である。()
251	施策28	指標の「消費者トラブルに遭わない心構えができていていると感じている市民の割合」が高いが、質問の仕方を変えた方がよい。()
252		「110番の家」は機能しているのか。()
253		登下校の見守りや青色パトロールの活動も書いた方がよいのではないかと。()
254	施策30	猪名川水系は、北海道の河川並みにきれいなので指標に入れる必要はない。きれいな数字を維持する意味もある。()
255		猪名川河川敷を市民が親しめる場所にできるよう、国交省に働きかけてほしい。()
256		地域や市民の役割を果たすだけでも結構ある。()
257	施策38	中学校の給食化を検討する必要がある。()